Ⅴ章　むすび

われわれ宇和島青年会議所で今回このような構想を掲げた背景には、今までこの地域が受けてきた海からの恩恵に対して、宇和島で生きる者すべてが本当にそれを認識し、感謝しているかどうか不信に思ったことがきっかけでした。民間や官庁に携わる人々はもちろん、海から得た商品を生業としている人々ですら薄れてきているような気がします。本構想はその感覚を少しでも打破したいというアイデアの集約だと考えていただければ幸いです。

また、今回、第一次産業中心の南予地区にとって水産業の不振が経済に与える打撃がこんなに大きいことを初めて実感し、語弊があるかもしれませんが、各地区の真珠御殿に代表される20年前の栄華を追い求めるが故の自殺者や失踪者の増加にも大変心いたまれるところです。現在でも養殖魚の価格の伸び悩みや、まだ尾を引く養殖真珠貝の斃死問題、市内漁協の合併不成立など問題は山積しております。しかし、先に述べたように過去・現在においてもやはり宇和島の他に負けない特性は「海」なのです。そこでわれわれは何をおいても海に関心をもち、大切にし、そして前向きに伸ばしていくことが大前提でると意見が一致しました。今回の構想は早急な課題への対応解決を要するものと、時間をかけゆっくりと解決していく課題とが混在していると思いますが、是非ともまち全体で前向きに取り組めば全てが為し得ない課題ではないと考えています。

現在宇和島市では、養殖研究部門として専門官が雇用され、宇和島地域ブランド化構想による宇和島真珠を核としたタウン構想、虹色グリーンツーリズムなど、海洋に関する事柄でまちの再生を図られています。宇和島水産高等学校におかれましては、地域の婦人会との交流による、地元の養殖魚を使用した缶詰製作や、行政との交流を主眼とした活動をされておられます。また、民間レベルでも、じゃこ天の拡販などに代表される宇和島オリジナル商品、名産品の形成、また新しい高級養殖魚の開発や販路の確立など、各種方面で各々が生き残りを賭け、血の出るような思いで、毎日努力されておられます。

しかし残念ながら、現状の宇和島ではそれらを特化し、外部に対抗できる環境が十分であるとは言い難い状況であると思われます。大同連携するところはまとめ協力し、それによってそれぞれが点で動いているものを線とし、またバラバラ観のある海洋政策を見直し、財政投入すべきところには投入するべきであるとわれわれは声高に訴えたいと思います。

この構想はそういった線をさらに円として、宇和島に関わるすべての力を同じベクトルに乗せることにより大きな力としまた新たな相乗効果を期待するものです。そのためには、是非とも先に述べた3つの基盤施策を通して、まちの基盤整備を行い、「強く前向きな宇和島」を「産・学・官・民」が連携し、創っていくべきであると考えます。そして、われわれが最後に望むものは、将来にわたり延々と聞こえる宇和海で遊ぶ子供達の笑い声であり、そして「宇和島」を誇らしげにまわりの方に語れる「うわじま人」のプライドなのです。

※写真引用　宇和島市観光協会HP　佐川印刷（株）　宇和島運輸（株）HP　愛媛県立宇和島水産高等学校HP